

## 【単年度事業評価様式】

**港南区地域子育て支援拠点事業**  
**平成30年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	平成30年4月1日～31年3月31日(2年度目/5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人ちゅーりっぷ
	港南区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 港南区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

## 平成30年度重点目標の評価

平成30年度重点目標	子育て家庭をあたたく見守る地域づくりに向けた取り組みを行う
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から継続して拠点利用を促すことで、切れ目なく子育てを見守れる場としていく。</li> <li>・小・中学生を中心にさまざまな世代との交流を図り、地域と共に子どもを見守る機運づくりをしていく。</li> <li>・「出張はっち」を実施し、広域のエリアで子育てに関わる学びの場を提供する。</li> </ul>
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての沐浴体験やプレママ向けの講座を開催し、多くのプレママ・プレパパが参加した。沐浴体験参加者には出産後に赤ちゃんとともに沐浴体験のゲストとして来館を促し、沐浴参加者とふれあう時間を作ることで出産後の拠点利用のイメージが持てるような工夫した。実際に出産後の利用につながり、継続しての利用もみられた。</li> <li>・小学校との連携でおこなう6年生と利用者親子のふれあい授業や中学生の拠点ひろばでのボランティア体験や職業体験を通じて、身近に乳幼児がいない児童・生徒でも触れ合える機会を設けることで、乳幼児に対してやさしいあたたかい気持ちを育む場となった。</li> <li>・「出張はっち」として公園へ出向き、一緒にあそぶことで外遊びの大切さを伝え拠点のPRも行った。親子のつどいの広場や地域ケアプラザ、既存の子育てサークルと連携することで参加者が増え、結果として拠点を知り、その後拠点を訪れるきっかけにつながった。</li> </ul>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沐浴体験には毎回定員を上回る応募があり、実施回数や人数に限りがあるため希望者全員に参加してもらえない状況は改善できていない。そのため不安を訴えている方には個別での対応を行い、不安軽減のための努力は行っているが限界がある。</li> <li>・中学生のボランティア体験では、区内の中学校全校にご案内をしたが、拠点までのアクセスも関係するのか、拠点に近い地域の中学生が参加するなど、偏りが生じてしまう。</li> <li>・「出張はっち」を行う際に地域の子育て支援関係者と連携していきたいが、どのように関係づくりをしていくかが課題である。</li> </ul>